

Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

～ グローバルな視野とローカルな視点からの学び ～

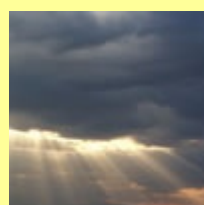
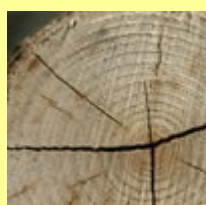
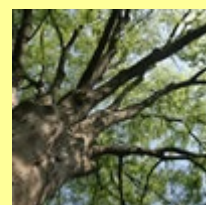
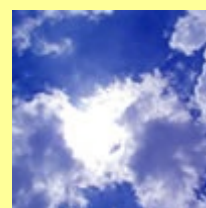
Newsletter No.9
2016.11.20.

事務局 kyoikujuku.hiroshima@gmail.com
URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号
広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックス 7

地球市民共育塾ひろしま



Have a Dream...
Do the Action!
for
the Better Future



世界中の人々が一人ひとり幸せに生きられる。そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」。取り扱うテーマも十人十色。「開発教育」に関心のある人なら、だれでも参加できます。参加型の学習会を定期的に行っています。

～ あなたも地球市民共育塾ひろしまで一緒に学びませんか？ ～



MDGsからSDGsへ

ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) とは、極度の貧困と飢餓の撲滅など、2015 (平成 27) 年までに達成すべき 8 つの目標を掲げた、開発分野における国際社会共通の目標のことで、2000 (平成 12) 年 9 月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットでまとめられました。国際社会の共通目標としてミレニアム開発目標 (MDGs) が設定されて以降、世界の国々と人々はその達成に向けて取り組んできました。世界的に見ると、1 日 1.25 ドル未満で生活する人々の割合が半減し、小学校で男女の就学率がほぼ同数になり、マラリアによる死亡者数が約 3 分の 1 減少するなど、多くの分野で進捗がありました。妊産婦死亡率の低下などは十分な成果が上がっていません。

昨年 2015 年は、MDGs の最終年度でしたが、依然課題も多く残っているため、引き続き取り組みを行っていく必要から、国連では新たに「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs) を策定し、2030 (平成 42) 年を目標に「誰も置き去りにしない (no one will be left behind)」を基本理念に引き続き取り組んでいくことになりました。

参加型学習に挑戦してみよう

1 参加型学習とはなにか

参加型学習とは、一方向な知識伝達型の学習ではなく、学習者が学習過程に積極的に参加することを促す学習形態のことを言います。

開発教育などの地球的課題を扱う教育では、参加型学習は単にひとつの授業や講座の中だけで学習者の参加を促す学習としてのみではなくて、学習者の社会参加をねらいとした学習として捉えられてきました。この場合の参加型学習は、学習者が現在または将来において社会の抱える課題に気づきそれを理解し、その解決に向けて参加していく態度や技能を養うための学習活動であると言えます。

また、参加型学習は「学習結果よりも学習過程を重視する」学習でもあります。社会の抱えるさまざまな問題の解決に、特定の正解があるわけではありません。だから、学習者は提示された正解をただ覚えればよいというものではなく、学習者と教師・指導者が共に話し合う中で、その現状や原因を理解し、解決方法を考えていくことが重要となります。そのような過程の中での学びを生み出すためにも、その過程自体を約束する学習方法が重視されるのです。

2 ワークショップとは

ワークショップとは、本来「作業場」や「工房」を意味する語ですが、そこから派生して、学習者が知識やアイデアを出し合い、新たな発見や学びを獲得し、また協働して学習の成果物を創造するような参加型の学習形態をワークショップと呼ぶようになりました。学習者が自らの知識や体験を持って積極的に関わるスタイルで、一人ひとりが自分なりの意見と答を持ち、それぞれの意見を尊重し合いながらも共通のものを作り上げていくための学び合いのことで、ワークショップは、与えられる知識や学びではなく、自らの「気づき」によって学ぶ活動であることが特徴です。

3 ファシリテーターとは

ワークショップの進行役のことをファシリテーターと呼びます。ファシリテーターを直訳すると「促進者」「媒介者」となります。ファシリテーターは、学習者が互いに地域、情報、経験を出し合い、それを共有し、議論を深める過程で、新たな気づきや学びが生まれるような環境を整える役目を担います。

参加型学習での教師や指導者の役割は、知識詰め込み型学習での役割と大きく異なります。ファシリテーターとは、学習者より多くの知識を持っている人、正答を持っている人ではありません。ファシリテーターは、学習者一人ひとりがそれぞれ異なる経験・知識・意見などを持っていることを尊重し、それらを引き出し、対話を生み出し、相互の学び合いを促進する人です。それは決して、司会者のような“進行役”に徹するということでもありません。ファシリテーターには、対話を生み出すきっかけづくりとして、いくつかの手法を活用し、学習者の意見を引き出しながらも、対話を通した学び合いに自分も参加し、必要に応じて自分の意見や立場を示していくことが求められます。

4 参加型学習の教材の入手方法

はじめて参加型学習に取り組むにあたっては、まずは既存の教材からチャレンジしてみるとよいかもしれません。開発教育協会(DEAR)では、有名な参加型教材の「貿易ゲーム」をはじめ、たくさんの参加型教材を発行しています。

また、私たち共育塾でも、参加型の教材集として、「参加型で学ぶ広島・ヒロシマ・hiroshima」と「参加型で学ぶ広島と多文化共生」の二冊を刊行しています。入手希望者には教材をお分けしていますので、メールで在庫と入手方法を問い合わせてください。

ルワンダ ~ジェノサイドから新しい国づくり~歴史と教育に学ぶ^初訪問記

今年2月初めてルワンダを訪れ、3週間を過ごした。ルワンダで22年前なぜ国民の1割が犠牲になった大虐殺が起きたのか、植民地支配の影響とはどのようなものだったのか？成長めざましいルワンダの人々はどのような社会を築いているのか？知りたい。ルワンダ出身の方々のお話を聴き、映画を観、文献を読み、さらに現地訪問への想いが募った。

大虐殺(ジェノサイド)の中、幼い子どもたちを連れて生きのびて第2の故郷福島に住む「ルワンダの教育を考える会」の代表である永遠璃(とわり)マリールイズさんのお話を聴いた。戦争で傷ついたルワンダの子どもたちに教育の機会を与え平和に寄与するため、キガリに「ウムチョムイーザ(良い文化)学園」を設立し活動を続けている。

そのルワンダの教育を考える会の第1回現地スタディツアーに参加。10年越しの夢がかない、成田発ドーハ経由で首都キガリの土を踏んだ。

ルワンダはどこにあるの？

右上の地図の赤い場所。内陸国。アフリカでもっとも人口密度の高い国と言われている。

今はケニア、隣国のタンザニア、ウガンダが作った「東アフリカ共同体」にブルンジと参加、政治・経済的な統合を図っている。

千の丘の国とも呼ばれるルワンダ。眼前に以前映像で見たあの美しい緑の丘が雨季の少し前の陽射しの下で穏やかに広がっていた。マリールイズさんのキガリ在住のご家族の暖かい歓迎を受け、第1週は東北や関東・中四国など各地から参加された皆さんとキガリ~国内各地のスタディツアーを体験した。

第1週:2日目キガリに同会が設立し支援しているウムチョムイーザ学園を訪れた。金曜日の朝礼では、子どもたちが今週の学習や調べの成果を学年毎に自発的に生き活きと発表していた。最後はピースクラブの児童が登場、「平和と連帯！」と大きな声で唱和してポーズ。続くダンスの表現力に魅了された。



ウムチョムイーザ学園(首都キガリ)の金曜日の朝礼

<http://www.rwanda-npo.org/>

22年前国内で戦争が始まり、マリールイズさんが大虐殺の中、コンゴ民主共和国(DRC)との国境の難民キャンプまで命がけて逃げた道を一緒にたどった。

「夜、明日が来ることを疑わずに眠り、朝目覚めることができる日常の平和に気づき、しっかりと意識し味わってほしいの。」子どもたちが何処でもいつでも安心して眠れることが平和。「子どもたちに将来何になりたい？と尋ねたとき、おばちゃんわたしたちがそれまで生きていられると思う？と問い返され泣いた。その時、この子たちが再び目を輝かせて何になりたいと言える社会をつくりたいと決意し、ウムチョムイーザ学園を創った。」と語るマリールイズさんの言葉の意味を改めて魂に深くきざんだ。

彼女と家族が当時生活し、AMDAの緊急医療チームと出会った難民キャンプ跡の近く、週末人々が想い思いに過ごすキブ湖の輝く湖面が見えた。

ルワンダ:首都キガリは東アフリカで最も犯罪率が低く、女性が安心して夜道を歩ける。/
・世界銀行の調査によると、中国やインドより政治安定度が高い。/
・海外からの投資の窓口をルワンダ開発局(RDB)に一本化。経済成長率は内陸国ながら毎年約8%前後と高い。投資環境はサハラ以南アフリカで第2位。/
・アフリカで最も汚職が少ない。女性が町内会・市町村の重要な意思決定の場で代表として参加。地方議員では全体の4割強、国会議員は6割以上、裁判官は6割、大臣では3割以上と現在、世界一。/
・選挙時の投票率は9割以上。

<http://matome.naver.jp/odai/2140132865193867101>他

家族や親せきどうし自由に行き来していた場所にある日国境線が引かれた。それ以前、王国で家畜を多く所有し富裕で支配層であったツチの人々と農耕系で被支配層にあったフツの人々、狩猟系で少数のトゥワの人々の境界はもともと非常に曖昧であった。今ではツチとフツの人々の由来は同じなこと、当時欧州で流布されていた“最も優れた人種が他の劣った人種を支配するのは当然”という人種観が、人種的区別が曖昧だったルワンダ社会に人種概念を形成したことが知られている。人種的に区別するために目と鼻の距離を測り、身長を比較するなど人工的な人種創造が行われ、身分証の携行が求められた。

(お読み下さりありがとうございます。 続く 服部淳子)



出典 www2.ttcn.ne.jp

「地球市民共育塾ひろしま」のご案内



Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

「地球市民共育塾ひろしま」(略称・共育塾)とは

Have a Dream. Do the Action! for the Better Future.

「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」...。取り扱うテーマも十人十色。世界の人々が一人ひとり幸せに生きられる。「地球市民共育塾ひろしま」は、そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。

地球市民共育塾ひろしまは、開発教育やESD(持続可能な開発のための教育)の学び合いを目的とした市民のグループとして、2005年5月に、学生中心の団体であった旧「地球市民共育塾ひがしひろしま」を改組して、「地球市民共育塾ひろしま」として設立、今日に至っています。



開発教育とは

世界でおこっている貧困・飢餓、紛争・戦争、環境破壊、人権侵害といった問題は、日本の社会のあり方や私たちのライフスタイルとも深く関係しています。また日本にも同様の問題が存在しています。開発教育は、私たちひとりひとりが、このような世界のさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。開発教育では、学習者が自ら答えを見出していくプロセスを重要視し、そのためロールプレイ、ディベート、ランキング、フォト・ランゲージ、シミュレーションなどのようなワークショップ(参加型学習)と呼ばれる手法を用いています。



参加型の教材開発

共育塾では、2010年度から、地域の課題に対応した広島発のあたらしい参加型教材プログラムを開発する取り組みを行ってきました。その成果として、2012年3月に『参加型で学ぶ「広島」「ヒロシマ」「Hiroshima」』、2015年3月には『参加型で学ぶ「広島と多文化共生」』の2冊の教材集を発刊することができました。この教材集は、関係機関や開発教育やESDの実践者の皆様に寄贈させていただいております。



みなさんも参加してみませんか

共育塾では、教材づくり以外にも、連続講座の実施、「広島市まちづくり市民交流フェスタ」へのワークショップ企画参加、「広島市国際交流・協力の日」へのブース出展、他団体との協働事業などや、セミナー等への講師派遣なども行っています。また、共育塾ではメーリングリスト会員制度もあり、教職員、会社員、国際協力関係者、NGOや地域活動関係者、研究者、大学生・院生など多様なジャンルの方々100人以上に登録していただき、情報交換を行っています。

ご関心のある皆さまのご参加をお待ちしております。



役員 代表 : 荒川純太郎 (共生庵・地球市民共育塾共同主宰)

事務局代表 : 中須賀裕幸・服部淳子

教材づくり代表 : 富田和広・岡田祐一

刊行物

- ・『地球市民共育塾ひろしま年次報告』(1~5)。
- ・『中国地区開発教育担い手連携・スキルアップ連続講座報告書』。
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島」「ヒロシマ」「Hiroshima」』
- ・研究成果報告書『広島の開発教育・ESD』
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島と多文化共生」』

ホームページ URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>

メール: kyoikujuku.hiroshima@gmail.com

問い合わせ先: 〒730-0036 広島市中区袋町6番36号 広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックス 7

